

大規模停電

もう一度思い出し 冬への備えを！

防災講座

普段何気なく使用している電気が使用できなくなると、生活が困難になるほか、厳冬期では生命に直接影響があることを、平成24年に登別市を中心に発生した大規模停電、平成30年の胆振東部地震で発生したブラックアウトで身をもって体験しました。もう一度当時を思い出して停電への備えを確認しましょう。

冬の停電から命を守る対処方法

- ① 電気を使用しないポータブル石油ストーブ、携帯ガスコンロ・ガスボンベを用意する。
- ② 防寒衣・使い捨てカイロなど暖をとるものを備蓄する。
- ③ 懐中電灯、電池、ランタンの用意ほか、電池式ラジオや携帯電話などで情報収集（ほくでん停電情報など）をする。
- ④ 冬季の停電に備えた食料を備蓄する。

問い合わせ先：総務課 危機管理室 ☎85-3080

大規模自然災害からの復旧・復興に欠かせない 町災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定書締結 ～町と町社会福祉協議会～

町と町社会福祉協議会（山崎宏一会長）は11月6日、町ボランティアセンター（以下ボラセン）の設置・運営に関する協定書を締結しました。災害発生後の復旧・復興には全国から集まるボランティアの支援が不可欠で、その受け入れ態勢の充実が求められています。業務が集中する行政としてボラセンを運営するのは困難なことから、業務を社協に担ってもらうため締結しました。内容は「災害ボランティアの受け入れ、活動指示などの調整」「活動を支援するために必要な業務」「災害廃棄物の撤去」など。調印に当たり戸田安彦町長は「防災計画も修正しました。行政だけでは手が回らないところをよろしく願います」と話しました。調印に臨んだ吉田末治同社協副会長は「ボランティアの受け入れ、派遣がより迅速に行なえるようになりました。協定は非常に重要なもので、社協としても責任の重さを感じています」と会長あいさつを代読しました。今後は運営マニュアルの策定やボランティア登録の呼び掛け、訓練などを順次進める方針という。



町民意見募集

史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画(案)

日程（予定）	内 容
12月9日(水) 1月8日(金)	白老仙台藩陣屋跡は、江戸幕府が仙台藩に命じて造営させた幕末期の北海道を代表する史跡で、ウポポイの関連区域に指定されています。 陣屋跡が本来持っている価値（本質的価値）を確実に次世代へ継承するとともに、抽出したさまざまな要素を整理し、多様な来訪者にその価値を分かりやすく伝えていくなど、これからの陣屋跡の保存や活用に生かすための計画です。

- ◆資料配布・閲覧場所：役場、各出張所、いきいき4♥6、白老コミセン、図書館、町ホームページ
- ◆意見の提出方法：配布場所への持参、郵送、ファクス（85-2666）、Eメール（jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp）

問い合わせ先：生涯学習課 ☎85-2020 元陣屋資料館 ☎85-2666